

南牧村花卉生産組合花情報(平成 27 年 7 月)

「なんもくの花」



群馬県の南西部に位置する南牧村では、平均年齢 70 歳以上の 15 名が 50 種類を超える宿根草や花木類などの切り花を栽培し、「なんもくの花」として首都圏へ出荷しています。(上の写真は初めて実施した東京都中央卸売市場大田市場での PR 活動です)

『先進地視察研修会』

組合では、知識や技術向上のために、毎年視察研修会を実施しています。今年は以前から組合で熱望していた長野県内の産地でヒペリカムの栽培方法を学び、さらに大手種苗メーカーの研究農場で新たな品目について学びました。15 名の組合員の花づくりの情熱は衰えることを知りません。



『東京で「なんもくの花」をPR！』

市場に出荷するだけでは産地の知名度は向上しません。組合では新たな取り組みとして、7 月 13 日に東京都の大田市場内で PR 活動を行いました。当日は法被にのぼり旗、パンフレットなどを用意。関係機関の協力も得て、セリ場やショーケースなどで「なんもくの花」を PR。その効果はいかに？



『期待の「星」初出荷！』

試験栽培を行っていたコギク新品種「小夏の星」の出荷が始まりました。昔、南牧村ではキク栽培が盛んでしたが今では数が少なくなっています。試験栽培では南牧村の諸条件を踏まえた栽培にも取り組みました。「小夏の星」でキク栽培の復活なるか？期待大です！

